

JUA Newsletter for Next Uro-Generation

No. 2
January
2017

医学生・初期研修医のための泌尿器科Newsletter

関西地方版

関西医科大学

関西医科大学

腎泌尿器外科学講座の紹介

医局長 矢西正明

当科の特色

当科は日本で最も早くから腹腔鏡下手術に取り組み、様々な術式の開発や工夫に積極的に取り組み続けています。また、泌尿器科は前立腺癌をはじめとした泌尿器腫瘍分野を中心に、排



2015年 当科主催 日本内視鏡外科学会



尿器腹腔鏡手術の黎明期から関わっており、精索静脈瘤の手術を初めて腹腔鏡下で行って以降、多数の腹腔鏡手術の開発に取り組みでこられました。年々腹腔鏡下手術の適応は拡大し、現在は年間約250件の腹腔鏡下手術を行っています。2013年からはロボット手術を導入し、現在は年間150例以上のロボット手術を行っています。また、腎盂形成術や尿管摘除術には難易度の高い単孔式腹腔鏡下手術も行っており、更なる低侵襲性を追求しています。また研究分野では医工学連携に力を入れており、吉田健志助教を研究リーダーとして様々な取り組みを行っています。その研究内容は、泌尿器内視鏡学会から2014年総会賞・2015年阿曾賞を受賞するなど高い評価を得ています。



阿曾賞トロフィー前にて記念撮影

① 腹腔鏡手術
松田公志主任教授は、泌尿

② 泌尿器腫瘍分野



学位授与式にて

木下秀文病院教授（副部長）を中心に、前立腺癌をはじめとする泌尿器腫瘍の治療に当たっています。特に前立腺癌や小径腎細胞癌に対するロボット手術件数はトップクラスです。その他抗癌剤治療や放射線治療など集学的治療においても、放射線科をはじめ他科と定期的にカンファレンスを行って治療にあたっており、手術だけでなく様々な症例を経験することができます。また、病理学や解剖学などの基礎講座と連携し、多数の医局員が大学院に進学して日々研究を行っています。

③ 尿路結石
泌尿器科においてもっとも頻度の高い疾患の一つですが、近年医療機器の進歩に伴い、経尿道的内視鏡手術が増加しています。関西医大総合医療センターには結石センターを開設し、井上貴昭助教を中

心に多数の手術件数を行うだけでなく、全国の施設に技術指導を提供するほどの高い技術を有しています。

④ 排尿・男性学・小児泌尿器・腎移植・その他
各分野の担当医が中心になって診療に当たっており、それぞれの分野で症例数を増やしています。学会発表や論文発表も積極的に発行しており、近年成果をあげています。

研修スケジュール

当科では泌尿器科の特定の分野に偏ることなく研修を積むことができます。一般泌尿器医であることが前提で、興味のある分野に対して専門医を取得後は、サブスペシャリティーを決めて更なるキャリアアップができるようになっています。具体的な研修プログラムは左記の通りです。



① 関西医科大学



② 関西医科大学総合医療センター



③ 関西医科大学香里病院

- 126例
- * 腎部分切除術34例
- * 腹腔鏡手術95例
- * 経尿道的前立腺核出術40例
- * 膀胱全摘除術20例
- * 経尿道的膀胱腫瘍切除術20例
- 1例
- * 尿路結石手術129例
- * 女性泌尿器35例
- * 生体腎移植術10例

研修医・医学生の方へ

関西医科大学腎泌尿器外科は、腹腔鏡手術の進歩とともに、大きく成長しました。今後は、更なる低侵襲手術の追求に加え、新たな臨床・研究分野を加え大きく飛躍することを目指しており、そのため一人でも多くの人材を必要としています。ぜひ、みなさん関西医科大学腎泌尿器科の一員になって頂き、一緒に泌尿器科の発展のために切磋琢磨していきましょう。当科に興味のある方は、当科のホームページのFacebookページ是非ご覧ください。

ホームページ: <http://www7.kmu.ac.jp/urology/>
Facebook: ホームページよりリンクできます。(当科に興味のある方)や研修カリキュラムをご覧になりたい方は当科のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

主な研修病院
* 関西医科大学附属病院
* 関西医科大学総合医療センター
* 関西医科大学香里病院
* 済生会大野江病院
* 済生会奈良尾病院 など
主な手術件数
(2015年 総手術件数1273例)
* 前立腺全摘術(ロボット支援)

JUA Newsletter for Next Uro-Generation

No. 2
January
2017

医学生・初期研修医のための泌尿器科Newsletter

関西地方版

兵庫医科大学

ウロとラグビー

鳴谷 公宏

兵庫医科大学泌尿器科の嶋谷公宏と申します。医者五年目、毎日幸せに過ごしております。

泌尿器科とラグビーの類似性について検討しました。

僕は学生の頃から手術、手技が好きで、手を動かせる科に進みたいと思っていました。

外科系では消化器外科、呼吸器外科、整形外科を、内科系では内

視鏡的処置ができる消化器内科、カテーテル治療ができる循環器内科も候補にあげて初期研修に臨みました。

この時点では自分でも残念なことに泌尿器科が選択肢としてはあ

がっていませんでした。初期研修二年目の秋、

進路が決まらず路頭に迷っていたところ、先輩のすすめで回った泌尿器科ローテート一ヶ月目で、泌尿器科に即

決しました。

胃カメラと同様に軟性膀胱鏡が扱え、尿管ステント留置の際冠動脈造影に使うガイドワイヤーの操作もでき、尿管結石による敗血症性ショックを救命し、経尿道的手術、腹腔鏡手術、開腹



ラグビーはサッカー、野球等の人気スポーツと比較して、ルールが煩雑でゴールデンタイムで放送されることもなく、痛い、苦しいなどマイナスイメージが先行し、部活動の勧誘も難航します。

しかし、ラグビーというスポーツほど一度体験すれば魂に火がつき、全身にアドレナリンがみなぎり、誰もが虜になってしま

うスポーツはあります。小さな楕円球をトライラインに少しでも近づけるためだけに、

大人たちが無我夢中に泥だらけになりながらボールを奪い合い、ト

ライを防ぐためなら身体が壊れるのも惜しま

ず、仲間のために喜んで自分を犠牲に身体を

はります。それ程、ラグビーというスポーツ

は、一度知ればその面白さ、奥深さに魅了されるものです。

同様に泌尿器科も、

テレビドラマの主役になりスポーツトライトが当たる機会は今のところなく、小中学生が将来泌尿器科医になる！とは言いません。しかしながら、冒頭にも述べたように泌尿器科の多岐にわたる手術、手技の面白さ、結果から得られる達成感や満足感、そして学問としての奥深さは、一度知れば、一生を楽しまながら学べるものであると確信します。

五郎丸選手がワールドカップでラグビーに脚光を当ててくれたおかげで人気が出たように、知る機会があれば本心に面白いものは必ず評価されます。僕には到底そのような力はありませんが、外科系を自指していた僕が、始めは選択肢になかった泌尿器科を知ること、ラグビーのように虜になったということをお伝えできればと思います。

一人でも多くの方が泌尿器科を知るきっかけになれば嬉しく思います。